

# 東日本大震災

## アレルギー対応の食品

### 長岡の企業 輸送拠点に



東日本大震災の被災地で、アレルギーや食事制限のある人が安全な食料

が得られず、厳しい状況に置かれている。長岡市の会社の倉庫が、こうした人のための食品を全国

アレルギーや食事制限のある人のため、全国から集まった物資。逐次、被災地へ送る。23日、長岡市脇川新田町

から集め、被災者へ届ける拠点になっている。

首都圏と、岩手、宮城、福島各県を結ぶ物流が滞る一方、比較的 normally 機能している日本海側のルートで輸送することに

した。23日までに、静岡県湖西市が備蓄していたアレルギー対応米2500食など2万数千食をこのルートで提供した。

さらに大阪府のアレルギー対応菓子メーカーから製品を送りたいと申し出があり、ほかにも低アレルギーのレトルト食品を提供したいなどの打診も来ているという。

こうした食品は全国から被災地へ送られているが、ほかの食品の箱と混ざり、多数がどこに行ったら分からなくなった例もあるという。そのため専門知識を持つスタッフのいる倉庫に一度集め、逐次直接届ける必要があるとし、長岡市の「エコーライス新潟」を経由するルートを作った。

輸送には同社や名古屋市のNPO法人のスタッフ、アレルギーのある子ども親らもボランティアで協力している。

同社マネージャーの豊永有さん(47)は「ちゃんと届ける態勢ができた。ただ、震災後すぐに万全の輸送態勢ができるわけではなく、あらかじめ各自治体がかような食品を備蓄するのが必要」と強調した。